

重点課題の考え方

セブン&アイHLDGS.は、膨大な商品・サービスを提供する上で、社会・環境に配慮したものにし、エシカル*な社会づくりに貢献していくことが、グループとしての重要な役割であると考えています。

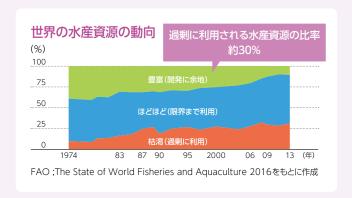
商品の原材料の調達からお客様のもとに届くまでのすべてのプロセスにおいて、法令を遵守するだけでなく社会・環境に配慮した価値のあるものを提供することは、資源の持続可能性向上に寄与するとともに、サプライチェーンの強靭さを向上し、事業継続性を担保する上で重要です。また、近年高まる、「エシカルな消費」へのお客様の意識に対応することで、競争力の強化にもつながります。そのため、お取引先を含むサプライチェーン全体で取り組みを進めていきます。

※「倫理的」「道徳的」という意味。近年では、環境保全や社会貢献という意味が強くなっている。

重点課題の背景

●漁業資源の減少・枯渇

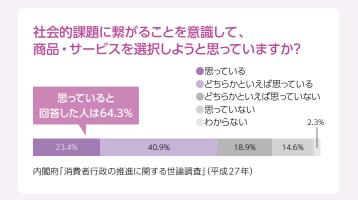
近年、魚介類の消費量が増加する中で、乱獲や環境を壊すような資源利用などが行われてきました。その結果、健全な状態の水産資源が確実に減少する一方で、枯渇の危機にある資源が増えてきています。私たちの身近なものでもクロマグロやニホンウナギが絶滅の危機にひんしています。



●サプライチェーンの社会・環境影響への関心の高まり

世界中でさまざまな社会課題が存在する中、フェアトレードで生産されたものを購入したいという消費者が増え

ています。こうしたエシカルな消費に対する意識の高まりに合わせて、サプライチェーン全体での持続可能なビジネスモデルを構築することが重要になっています。



重点課題の推進体制

本重点課題は、セブン&アイHLDGS.取締役執行役員 CSR統括部シニアオフィサーを責任者にCSR統括委員会 とその傘下の消費者・公正取引部会では、「公正・公平な 取引」「サプライチェーンの社会・環境影響への対応」、環 境部会では、「自然資源の枯渇」「生物多様性の損失」と いった商品調達、お取引先に関わる課題を挙げ、具体的な 対策を検討・立案し、グループ全体で取り組んでいます。

SDGsへの貢献

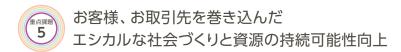
この重点課題に取り組むことで、セブン&アイHLDGS.はサプライチェーン全体で持続可能な食資源の生産と消費形態を実現し、持続可能な開発目標(SDGs)の目標2と4、12、14の達成に貢献します。











お取引先行動指針の強化

セブン&アイHLDGS.は、お客様に安全・安心な商品を 提供し、お取引先と協働で人権・労働・環境面などの社会 的責任を果たしていくため、お取引先行動指針の運用を強 化しています。

●お取引先行動指針の徹底

セブン&アイHLDGS.は、2007年に「セブン&アイHLDGS.お取引先行動指針」(以下、本指針)を策定し、お取引先に本指針への理解と遵守をお願いしています。本指針の趣旨は、グループで取り扱っている商品・サービスの安全性と品質の確保だけでなく、サプライチェーン全体の法令遵守、環境保全、労働条件への配慮などを推進し、お取引先の皆様とともに社会的責任を果たすことです。本指針については、グループ各社のお取引先とのさまざまな会議を通じて周知を図っています。

セブン&アイHLDGS.お取引先行動指針(抜粋)

- 1. 法令遵守
- 2. 人権・個人の尊厳の尊重
- 3. 雇用・職場環境
- 4. 環境管理
- J. /正/门 490/30/30/2015
- 6. 情報の管理
- 5. 地域・社会との関係7. 商品の安全確保
- 8. 公正な取引
- 9. モニタリング



お取引先へのお取引先行動指針の説明会の様子

セブン&アイHLDGS.お取引先行動指針はこちら

http://www.7andi.com/csr/suppliers/guide.html

●「セルフチェックシート」による指針遵守

セブン&アイHLDGS.では、お取引先に本指針を理解いただき、実効性のあるCSRの取り組みに役立てていただくことを目的に、本指針の遵守に必要な具体的事項を明記したお取引先向けのセルフチェックシートを運用しています。

このチェックシートは、「ISO26000」「経団連企業行動 憲章」「OECD多国籍企業行動指針」などを参考に作成し、 グループ共通の戦略商品であるプライベートブランド「セ ブンプレミアム」およびセブン-イレブンのオリジナルデイ リーメーカーと配送センター、イトーヨーカドーの海外直 輸入のお取引先に対して年に1度提出をお願いしていま す。このチェックシートの運用を通じて、お取引先のCSR の取り組み状況を把握しています。

チェックシートでは、法令違反がないこと、工場で働く人が相談できる窓口の有無、自社の取引先にセブン&アイHLDGS.お取引先行動指針への遵守を求めているか、労働組合の設立を禁止していないか、といった61項目の質問に回答いただいています。また、その工場が取得しているCSRに関連する規格名(SA8000、BCSI、SMETA、ICS、ICTI、WRAP、EICC)についても確認しています。

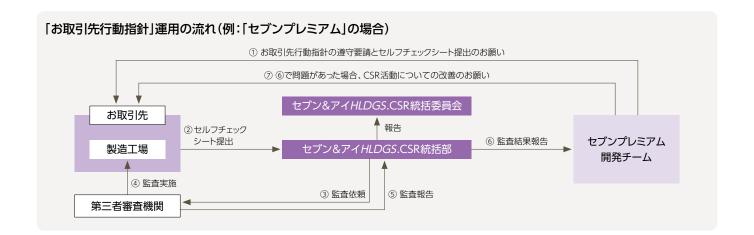
なお、このセルフチェックシートの回答は、データベース化し、該当工場と取引している仕入担当者だけでなく、該当部門の全社員がいつでも確認でき、仕入担当者はデータベースにあるお取引先のCSRの取り組み状況も参考にして、取り引きの継続を判断しています。

セルフチェックシートの項目(抜粋)

- 1. 法令順守
- 2. 人権・個人の尊厳の尊重
- 3. 雇用・職場環境
- 4. 環境管理
- 5. 地域・社会との関係
- 6. 情報の管理
- 7. 商品の安全確保
- 8. 公正な取引
- 9. モニタリング

(「本指針の遵守を証明する文書・実施記録を作成し、適切に保管しているか」を問う)





●お取引先CSR監査の実施

セブン&アイHLDGS.では、2012年度よりセルフチェックシートの提出をお願いした一部のお取引先に対して、本指針への遵守状況を確認するCSR監査を実施しています。 監査対象は途上国にあるプライベートブランド商品のお取引先の製造工場を中心に、年に一度監査しています。 CSR監査では、チェックシートに基づき、独自に作成した監査項目(16の大項目と約114のチェック項目)に沿って、外部の第三者審査機関がお取引先の工場を監査しています。CSR監査の項目は、ISO26000の内容を基本とし、加えてセブン&アイお取引先行動指針で定めた内容が遵守されているかどうかを次の16の大項目で監査します。なお、この項目は国際労働機関(ILO)の定める国際労働基準の内容と同様です。以下はチェック項目の一例です。

CSR監査項目(16の大項目)

1. マネジメントシステムおよび規範実施

- ・組織は、セブン&アイお取引先行動指針の全ての項目に準拠したシステムを実行し、維持しなければならない。
- ・組織は、実現可能な場合、同指針を自社のサプライチェーン に拡大すべきである。
- ・組織は、関連する法令及び国際条約などを把握し、遵守しなければならない。

2. 強制労働

- ・強制、拘束、あるいは、強要された囚人労働がないこと。
- ・雇用者に供託金あるいは身分証明書の提出が教養されておらず、妥当な通知を行った後、自由意思に基づいて退職することができる。
- ・強制労働に関する国・地域の法律が認識されていること。

3. 結社の自由

・作業者は、差別されることなく、彼ら自身が選択する労働組合に 参加する、あるいは、結成する権利を有し、団体交渉権を有す。 ・結社の自由に関する地域の法律や作業者の権利が認識されて いること。

4. 健康および安全

- ・設備機械には安全保護策が施され、予防的なメンテナンス訪問が実施されていること。
- ・化学薬品の取扱・保管が適切であること。
- ・全ての必要な防具(PE)は、購入され、定期的に交換されていること。

5. 児童労働および若年労働者

- ・児童労働をさせてはならない。
- ・児童および18歳未満の若年者は、夜間および危険な環境での就業はしてはならない。これらの業務には、化学物質を使用する、または、その近くでの作業、危険な機械、重労働、過度に騒音のある場所での業務を含み、夜間労働、長時間労働も含む。



6. 生活賃金

- ・残業手当は、法的に義務付けられた比率で支払われること。
- ・全ての法的義務のある手当や福利厚生は従業者に提供されること。

7. 労働時間

・作業者は、習慣的に、48時間/週を越える労働が要求されてはならず、少なくとも、平均、7日ごとに1日の休日が与えられなければならない。残業は任意でなければならず、12時間/週を越えてはならない。また、習慣的に要求されてはならず、常に、追加料金が支払われなければならない。

8. 差別

・採用、報酬、訓練授与、昇給、解雇、及び、退職における、人種、階級、国籍、宗教、年齢、障害、性別、配偶者の有無、性的指向、組合員、所属政党で差別されないこと。

9. 正規雇用

・可能な限り、国家法規制にもとづいた、広く認められた雇用関係をベースで業務は実行されなければならない。

10. 下請け契約、家内工業、外部加工

・顧客との事前合意がない限り、下請契約は実施してはならない。

11. 懲罰

・身体的虐待、あるいは、懲罰、身体的虐待の脅威、性的あるいはその他ハラスメントおよび、言葉による虐待、あるいは、脅 迫は禁止されなければならない。

- ・懲罰方法は、公正で、効果的であり、恣意的なものであっては ならない。
- ・雇用者は、必要な懲罰行為に関連して、作業者の精神的・感情的・身体的健康への尊重をしめすこと。

12. 環境

- ・組織は、その環境パフォーマンスにおいて継続的改善を追求 していかなければならず、最低限、地域の要求事項や国際法 規制に準拠すること。
- ・国際条約または法規制で禁止されている化学物質を使用して いないこと。

13. 公正な取り引き

・公正な取引に関連する法令を把握し、遵守していること。

14. 商品の安全確保のために

・セブン&アイ各事業会社に納入する商品において、該当事業会社から要請された品質基準および日本で定められている関連法基準を遵守していること。

15. セキュリティ管理

・悪意のあるアクセスからの保護するため、セキュリティの仕組 みが導入されていること。

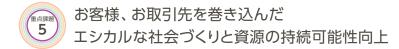
16. 地域社会の便益

・反社会的勢力との関係を断絶していること。

監査する工場には、事前に通告したうえで訪問し、管理者や労働者へのインタビューによって、CSR監査項目の遵守の有無を確認しています。監査の結果、もし監査項目に適合しない事項(不適合事項)が発見された場合には、外部の審査機関より当該お取引先に対し不適合事項の指摘を行います。お取引先には、この指摘に基づいた「是正処置計画(CAP)」を監査終了後10営業日以内に審査機関に提出していただくとともに、直ちに指摘事項の改善に取り

組んでいただいています。お取引先から指摘事項の改善 完了の報告を受けた後、改善を示した写真・担保資料の提 出などを受けて、改善完了の確認を行います。ただし、重 大な不適合項目が多数発生する場合など、一定の基準を 超えた場合は、再度工場を訪問し、状況を確認する再監査 を実施することで問題の改善を確認しています。

不適合の是正が完了しているか、またはCAPに記載された計画内容が有効であると審査機関およびセブン&アイ



HLDGS.が判断した時点で、お取引先には「適合認証書」を発行しています。



適合認証書

●2015年度の監査結果

2015年度は中国、ベトナム、タイ、インドネシア、カンボジア、ミャンマーなど11カ国、322工場に対してCSR監査を実施しました。その結果、全監査実施工場における本指針の平均遵守率は90%、再監査は31工場でした。改善が必要な項目の大半は、お取引先の工場のある現地での法律/法令の要求事項に対する認識不足、誤った解釈によるものが要因で、主な項目は、「労働環境」面、「安全・衛生」面、「許認可」面でした。監査終了後各工場から提出される「是正処置計画(CAP)」、改善を示した写真・担保資料、さらに再監査などを通して、改善完了の確認を行いました。

2015年度の再監査になった事例

(問題があった項目は全て改善完了)

- ・無届けや法基準を超えた長時間労働
- ・有害化学薬品の誤った取り扱い、保管
- ・無免許による機械操作、運転
- ・環境アセスメントの未実施
- ・未許可の廃棄物処理業者を使用

	対象 工場数	監査 工場数	再監査率	再監査 工場数
2012年度		17	5.9%	1
2013年度	374	29	20.7%	6
2014年度		256	11.3%	29
2015年度	322	322	9.6%	31
2016年度目標	281	281		

持続可能な森林保全活動

セブン&アイHLDGS.は、地球温暖化防止に貢献し、生物多様性の保全に寄与することを目的に、「セブンの森」プロジェクトを実施しています。

● 「セブンの森」森林保全プロジェクト

セブン&アイHLDGS.では、一般財団法人セブン-イレブン記念財団*を中心に地球温暖化防止、生物多様性の維持・保全に寄与することを主旨として、全国15カ所で森林整備活動に取り組んでいます。

日本では整備がされずに放置された人工林が多くあり、CO2の吸収など森林が持っている機能が十分に果たされていません。この「セブンの森」プロジェクトでは、「健全な森林づくり」を目指して、植樹にとどまらず、森林組合などの管理者と協働で計画的に下草刈り、間伐などを行っています。グループ社員やセブン・イレブン加盟店のボランティアによる森林整備も定期的に実施しており、従業員の環境意識の向上の場としても森を活用しています。2015年度は21回開催し合計1.629名が活動に参加しました。

また、間伐した木材の利用を推奨することは日本の森が 抱える問題の一つであり、長野の活動地では、森林から得 られる木質材をグループ内の店舗資材や事務備品として



使用するほか、商品化を進めることで国産木材の活用を促 進しています。



「セブンの森 | 森林保全プロジェクトの概要











活用

店舗資材などで



木質材



森林組合 (間伐・整備事業体)

「セブンの森」の詳細はこちら

http://www.7midori.org/katsudo/prevent_ warming/711forest/index.html

セブン-イレブン記念財団

一般財団法人セブン-イレブン記念財団は、加盟店 と本部が一体となって環境をテーマにした社会貢献活 動に取り組むことを目的として、1993年に設立されま した。お客様からお預かりした店頭募金と本部からの 寄付金をもとに、環境をテーマにした社会貢献活動と して、全国各地で活動する環境市民団体への支援をは じめ、「環境市民活動支援」「自然環境保護・保全」「災 害復興支援」「広報」の4つの事業を行っています。 2015年度の募金総額は約4億3千万円、環境市民活 動助成先総数(継続を含む)は264件、助成総額は約1 億7千万円でした。

セブン-イレブン記念財団のHPはこちら http://www.7midori.org/index.html

「持続可能な原材料の調達

セブン&アイHLDGS.は、自然資源の商品調達に関し、 将来世代にわたる持続可能な調達が求められるなど、各ス テークホルダーからの要請をふまえて、「持続可能な調達 基本方針 | の運用に取り組んでいます。

●国際的養殖認証 (ASC認証)商品の販売

イトーヨーカドーは、2011年3月の東日本大震災以降、 宮城県の戸倉事務所が進めている豊かな海の自然を守り つつ経済的にも持続可能な水産業の実現・復興を目指す プロジェクトに賛同し、組合の皆様が育てた日本初となる 環境と社会に配慮した養殖業を認証する国際的な制度 「ASC認証 |を取得した養殖力キの販売を、2016年10月 から開始しています。



●アラスカシーフードの取扱い

セブン&アイHLDGS.では、環境に配慮した持続可能な 漁業を実践する「アラスカシーフード」を販売しています。 「アラスカシーフード」は天然の水産品で、産地のアラスカ 州では、この天然水産資源が育まれる生態系を損なうこと のないよう資源管理・漁業管理などを徹底し、持続可能な 漁業を行っています。グループ共通のプライベートブラン ド「セブンプレミアム 紅鮭の塩焼」の原材料にはアラスカ 産天然紅鮭を使用しており、今後、グループ各社での取扱 品目の拡大を検討してまいります。





セブンプレミアム 紅鮭の塩焼

※アラスカの主要漁業は、世界水産物持続可能性イニシアチブ(GSSI)が一定基準で審査し、世界で初めて認定した[アラスカの責任ある漁業管理認証プログラム]の認証 漁業です。

アラスカシーフードのHPはこちら

http://japanese.alaskaseafood.org/seafood/appeal/

●オーガニック製品の調達

セブン&アイHLDGS.では、近年のお客様の商品に対する安全・安心への関心の高まりを受けて、2015年12月からグループ共通のプライベートブランド「セブンプレミアム」で初めて、厳しい有機製造基準をクリアした女性用肌着「オーガニックコットン100%インナー」を全国のイトーヨーカドー、ヨークベニマルの合計約200店舗とグループの統合ポータルサイト「オムニ7」で販売しています。この商品の原材料となるコットンは、「アメリカ有機繊維基準(OCS)」の認証を取得したオーガニックコットンのみを使用しています。このほかにも、グループ各社ではオーガ

ニックコットンのタオルや衣料品、有機コーヒーや茶葉なども販売しています。

※アメリカ有機繊維基準(OCS)とは、アメリカの非営利団体Organic Exchangeによって定められたOE Blended Standard に基づいて審査・認証が行っている有機認証機関。





「セブンプレミアム」オーガニックコットン 100%インナー

●農薬低減食品の取扱い

イトーヨーカドーとヨークベニマルでは、農薬の使用を 法律基準値よりも低減させたプライベートブランド商品を 販売しています。例えば、イトーヨーカドーでは完全な オーガニックではないものの、減農薬で栽培され、生産地 と生産履歴が担保されたプライベートブランド「顔が見え る野菜。」「顔が見える果物。」を販売しています。これらの 商品の2015年度の売上は約129億円です。

農薬の使い方や使用回数は地域や作物によってさまざまですが、「顔が見える野菜。」などでは、それぞれの地域で通常使用されている回数(地方公共団体などの公的機関が各作物について定めている平均的な使用回数)の半分以下を目標としています。

また、「顔が見える野菜。」「顔が見える果物。」とイトーヨーカドーによる環境循環型農業「セブンファーム」では、 農産物の安全性確保、農場の適正な経営などを目指し、 JGAP (Japan Good Agricultural Practice)認証を取得しています。JGAPとは、農林水産省が導入を推奨している農業生産工程管理手法の一つで、安全性向上や環境保全を図るために、日々の農場管理の中で実践すべき基準が定められています。JGAPの中には、「食の安全」と

「環境保全型農業」に関する項目があるため、こうした商品でも農薬の使用は必要最低限にとどめています。



顔が見える野菜。

「顔が見える野菜。」「顔が見える果物。」5つの約束

- 1. 国産の農作物に限定して取り扱います。
- 2. 適地適作に取り組む農家の方を、全国をまわって厳選します。
- 3. ひとりひとりの農家の方のお名前で、お客様にお届けします。
- 4. こだわりや人柄を、ホームページや売り場で紹介します。
- 5. 農薬抑制の目標を掲げ、農薬や放射性物質を継続的にチェックします。

JGAPガイドラインの項目

食の安全

- ・土・水・種苗の管理
- ・肥料の管理
- ・農業の管理
- ・収穫・運搬にかかわる衛生管理
- ・農産物取扱い

環境保全型農業

- ・水の保全
- ・土壌の保全
- ・周辺地への配慮
- ・廃棄物の適切な処理と削減
- ・エネルギーの節約
- ・環境保全への意識と生物多様性への配慮

エシカル消費の推進

セブン&アイHLDGS.は、人と社会、地球環境に配慮した商品の提供を通じた持続可能な社会づくりに寄与するビジネスモデルを創造するとともに、近年高まる「エシカル消費」を推進します。

●間伐材の利用

セブン&アイHLDGS.は、「長野セブンの森」から伐採した間伐材を包材に含む環境配慮型のプライベートブランド「セブンプレミアム」を、セブンーイレブン店舗をはじめとするグループ約18,000店舗で販売しています。健全な森林育成と地球温暖化防止につながる取り組みとして、飲料やカップスープ以外のカテゴリーにも広げるべく、開発を進めていきます。また、全国のセブン・イレブン店舗を中心に販売している「セブンカフェ」の紙容器にも間伐材を使用しています。どちらの商品にもパッケージには、間伐材を使用していること印字しています。



間伐材を使用した商品

●環境保全・自然共生型栽培米の販売

イトーヨーカドーでは、農薬・化学肥料を減らすだけでなく、野生生物が生息できる田んぼをつくり「生物多様性農業」を実践している「環境保全・自然共生型栽培米」シリーズを販売しています。この商品の収益の一部は産地の環境整備のために寄付しており、2015年度は「コウノトリ育むお米コシヒカリ」で約10万円をコウノトリ育成基金へ、



「朱鷺と暮らす郷づくり認証米 新潟県佐渡産コシヒカリ」で約20万円を佐渡市トキ環境整備基金へ寄付しました。



環境保全、自然共生栽培米

●グリーンラッピング

そごう・西武では、ギフトをご注文の際、「地球環境を考える」というメッセージもあわせて贈ることができる「グリーンラッピング」に取り組んでいます。お客様にリーフマスコット付きリボンを100円(税込み)でご購入いただくと、1件につき50円が植樹・育樹活動に寄付され、80件で1本の植樹につながります。また、お中元、お歳暮ギフトでは「簡易包装」へのご協力4,000件で1本の植樹を行っています(2009年から2016年8月末までの累計で9,775本を植樹)。



グリーンラッピング



社員の手でお客様の「やさしさ」がつまった苗木を大切 に植樹

●動物実験、動物福祉

セブン&アイHLDGS.では、プライベートブランド「セブンライフスタイル」の化粧品で、株式会社ファンケルと共同開発したスキンケア化粧品ブランド「ボタニカルフォース』シリーズをセブン・イレブンやそごう・西武(一部店舗)などで販売しています。この商品の開発にあたっては、動物実験は一切行わず、「原料メーカー保有の情報収集、文献からの情報収集、培養細胞による安全性試験、ヒトでの安全性試験」を実施することで安全性を確認しています。



ボタニカルフォースシリーズ

●エシカルファッションイベントの開催

そごう・西武のそごう横浜店では、エシカルなファッションアイテムを集めたイベント「WHAT'S ETHICAL/エシカルファッションをはじめよう!」を2015年5月に開催しました。

1つ1つの商品がエシカルである背景をわかりやすく掲示し、トークショーやワークショップも開催することで、ご参加いただいたお客様には、楽しみながらエシカルへの興味を広げていただきました。



エシカルファッションアイテムを一同に集積して展開